



2011年4月1日、午後2時、東京港区にある台湾の海運会社「陽明海運」の東京事務所で、「台湾の愛届け」と題した東日本大震災救援物資の贈呈式が行われた。主催は合計で400トンにもなる救援物資の収集と、救援のボランティアを行っているNGO国際佛光会世界総会。

最初に同会関東協会理事長の毛利友次氏からの会の趣旨説明があり、犠牲者に哀悼の意を表するとともに、台湾からの愛を受け取って欲しいと、挨拶があった。次に挨拶に立ったのは、台北駐日経済文化代表処の陳調和副代表。陳副代表は台湾と日本が古くからの深い友人であることを語り、台湾からの多くの援助について語った。続いて、日本側の挨拶は自由民主党衆議院銀徳田毅氏が行う予定だったが、徳田氏本人は他の件にどうしても出なければならないとのことで、秘書のまきのひろし氏が代理で徳田氏のメッセージを読み上げ、台湾の方々への深い感謝の意を述べた。なお、徳田毅氏は、医療法人徳洲会の徳田虎雄氏の次男。



挨拶が終わると、贈呈式に移った。



贈呈式では、最初に陳調和副代表から豊島区議会議員の竹下ひろみ氏へ、物資リストが手渡された。

次に東京協会曾文宏前会長から避難民を多く受け入れている糸魚川市の代表に、そして、大和協会の友成元一会長からやはり避難民を多く受け入れている伊香保市の代表にリストが手渡された。



その後、400tの救援物資を台湾から日本に送った陽明海運、長栄海運、萬海海運の代表者がそれぞれ挨拶。さらに、日本国内の運送を請け負ったトップワンエクスプレスの鄭敏雄社長から挨拶があった。最後に質問の時間があったが、質問は特に出ず、出席者どうしの連絡と歓談が行われた。

4月1日、台湾から日本への義援金が、官民あわせて100億円を超えた。この同じ日に行われた「台湾の愛 届け」贈呈式には、あたたかな台湾の人たちの日本人への気持ちがたくさん詰まっているように感じた。なお、特筆すべきは、今回の救援物資の送り先一覧には、原発の放射線漏洩問題などもあるためにマスコミでも一切報道されず、「空白地帯」と言われていた茨城県などへの救援物資も多く含んでいること。そして、佛光会では多くの災害ボランティアもともに来日していることだ。このことはもっと評価されて良いのではないだろうか。